

学校評価書

総社市立阿曾小学校
校長 池上 宗一郎
(公 印 省 略)

I 自己評価

1. 確かな学力の育成

【GIGA パソコンの有効活用による個別最適な学びができる児童の育成】

- ・校内研修等を通して、GIGA端末の利用促進を図ることができ、それに伴い、児童のGIGA端末活用も伸び、12月に毎日GIGAパソコンを授業で使っていると回答した児童は91.9%、であった。GIGAに関する研修や校内研究等を重ねることでGIGAパソコンを利用して個別最適な学びを意識していると回答した教職員は85.7%となり、算数や国語等でGIGAパソコンを活用しながら意欲的に学習する児童の姿が見られた。
- ・GIGAパソコンの活用により、子ども達の話し合い活動を深められている、子ども達が考えや理解を深められていると回答した教職員は100%となり、個別に研修を深め自由進度学習を取り入れたりやベネッセ支援員と連携して効果的な指導を行ったりする教職員も見られた。10月には、学校情報化認定を得ることができた。

【AZOノート・GIGA端末活用による家庭学習の充実】

- ・自分から進んでAZOノート(自主学習ノート)に取り組んだと回答した児童は90.8%であった。また、家に帰って学年の目標時間勉強できたと回答した児童は7月よりも伸びて90.1%であった。児童のノートを保護者に見てもらい称揚してもらうことで意欲付けになった児童もいたようだ。
- ・宿題など家庭学習をする習慣が身についてきていると回答した保護者は前回より増えたものの78.2%、子どもは家に帰って、各学年の目標時間勉強していると回答した保護者は71%と児童の評価よりも低い。子どもがメディアコントロール週間に家庭で考えたためあてに意欲的に取り組めるよう声かけをしていると回答した保護者は68.1%と低くなっている。今後も家庭へ周知を図るとともに、メディアコントロールに関するカードに保護者の反省欄を設け引き続き協力を得ていきたい。

2. 心の教育の充実

【心が通うあいさつや時と場に応じた相手を思いやる言葉遣いができる児童を育てる】

- ・先生、友達、地域の人に自分から先に、相手に聞こえる声であいさつをしていると回答した児童は92.8%、子どもはあいさつをしていると回答した保護者は87%である。登校時には相手の目を見てあいさつができる児童が増えているものの地域の人へのあいさつはできにくい実態が地域の方からも指摘されている。様々な場面で思いやりの気持ちをもったあいさつができるよう継続した指導が必要である。
- ・活動中の「さん」「くん」について、授業中については概ねできている。また、遊びと勉強の区別をつけ、相手を思いやった言葉遣いをしていると回答した児童は94.5%である。しかし、SNSやお互いの言葉がうまく伝わらないこと等でトラブルになってしまうことがある。引き続き SEL や道徳において相手を思いやる言葉がけについて指導していきたい。

【自己肯定感の向上】

- ・アンケート実施前に友達の良いところ探し等の取組を実施している学期には自己肯定感が上がっている。友達の良いところ探しする機会を増やしたり教師による意図的な声掛けや称揚に取り組んだりしていきたい。

【心を整え、落ち着いた雰囲気のかげができるように5分前行動の意識を高める】

- ・授業開始前の着席については86.5%、そうじの時にねばり玉をみがいていると回答した児童は99.1%、靴箱の靴をそろえていると回答した児童は91%となり、ほとんどの児童が落ち着いて学習できる心の準備ができるようになってきている。
- ・自問の取り組みについては96.4%の児童が肯定的な回答となっており、阿曾小学校の伝統にもなっている自問教育を引き継ぐために、児童が中心になって手本が見せられるよう、高学年の指導や計画委員会の活用を継続していきたい。

3.連携協働する学校づくり

【教職員が連携し、協働し合える職場づくりの推進】

- ・教職員どうしのつながりができるように定期的にグループで談話するリラックスタイムを設けることで連携したり協働したりしやすい職場になっていると100%の職員が回答している。助けてねボードによる連携・協働については、肯定的な回答が91.3%となっているが、使用頻度を上げ、連携・協働しやすい職場にしていきたい。

【仲間と協力し、自発的・自治的に活動する態度の育成】

- ・今年度から始めた縦割り班遊びや委員会の集会で、みんなと協力したり仲よくしたりできていると回答した児童が94.6%、自分から進んで学校やクラスのために話し合ったり取り組んだりしたと回答している児童が90%、自分は人の役に立っていると思うと回答した児童は86.4%である。本年度は、計画委員が中心となって業間休みの過ごし方について考え全校児童に伝える活動に取り組んだ。来年度も児童の自発的な活動を継続し、活躍できる場を設定したい。

4.健康的な職場環境づくり

【地域人材による授業・行事支援・環境整備】

- ・学校支援ボランティアなどと連携して環境整備ができていると回答した職員が90.9%、運動場、準備室や特別教室などの環境整備により利用しやすい環境になっていると回答した職員が100%である。自動散水栓の設置等により教職員の負担軽減に取り組めた。

【風通しの良い職場づくりの推進】

- ・職場の同僚性を育むことを意図したコンプライアンス研修による風通しのよい職場づくりや月1回の定時退庁日の設定や時間外勤務時間が多い職員に対して面談を行った。93.3%の教職員が退庁時刻や時間外勤務削減など働き方改革を意識するようになり、極端に時間外勤務時間が多かった職員の改善も図られた。

2 学校関係者評価者名

- | | |
|-------------------|------------------------|
| ・本行 一江 (阿曾幼稚園長) | ・高原 康則(総社東公民館阿曾分館長) |
| ・服部 英文 (育成センター職員) | ・富岡 淑子(地域づくり協議会阿曾応援部長) |
| ・遠山 潤 (PTA副会長) | ・伊丹 幸子(主任児童員) |

3 学校関係者評価

1.確かな学力の育成

【GIGA パソコンの有効活用による個別最適な学びができる児童の育成】

○自己評価は適切である。

- ・GIGA パソコンの使用率が高くなったことは分かるが、次のステップとして「GIGA パソコンを使って考えが深まったか」「話し合いが深まったか」ということを検証する必要がある。

【AZO ノート・GIGA 端末活用による家庭学習の充実】

○自己評価は適切である。

- ・AZOノートの取組を頑張っている子どもの表彰や展覧会は意欲付けになっている。また、展覧会を開催することで何に取り組めばよいか分からない子どもにとっては効果的である。実際に孫のAZOノートを見ると以前に比べ、内容が深まっていると感じる。
- ・GIGA端末を親子で使って取り組むような家庭学習に取り組ませれば、保護者も子どもの家庭学習に関心をもつことができるようになるのではないか。

2.心の教育の充実

【心が通うあいさつや時と場に応じた相手を思いやる言葉遣いができる児童を育てる】

○自己評価は適切である。

- ・最近、正門付近に立って登校した子ども達が大きな声であいさつができています。阿曾の子どもの挨拶の声が小さいと思っていたが、そうではないことがよく分かった。
- ・学校によっては、高学年の子どもがあいさつ運動をしているところもある。高学年が自主的にあいさつできるようになると効果が期待できる。
- ・品格教育については、学校だけではなく地域全体で取り組んでみてはどうか。来年度からスタートするコミュニティ・スクールの取組としても適しているのではないか。

【自己肯定感の向上】

○自己評価は適切である。

- ・幼稚園にも自分に自信がない園児がいる。まわりの大人が忙しいのでなかなか難しいが、しっかりと子どもを見て認めてやる必要があると思う。

【心を整え、落ち着いた雰囲気の構えができるように5分前行動の意識を高める】

○自己評価は適切である。

- ・5年生の児童が自主的に全校児童に5分前集合を呼びかけることに取り組んだことがすばらしい。
- ・5分前行動についての改善方策として、「休み時間終了5分前に予鈴を入れる」とあるが、それは5分前行動とはいえないのではないか。子どもが時計を見て自ら5分前に動くことができるようにする必要がある。

3.連携協働する学校づくり

【教職員が連携し、協働し合える職場づくりの推進】

○自己評価は適切である。

- ・助けてねボードを使って助け合うことができる環境づくりに取り組んでいることはよいことである。困っていることを「助けて」と言える関係性がよい。

【仲間と協力し、自発的・自治的に活動する態度の育成】

○自己評価は適切である。

- ・5・6年生が1・2年生のサポートに行くのはよいが、やりすぎてしまうと1・2年生の自主性・自立性が育たなくなってしまうので、5・6年生の子ども達に、1・2年生もできることはさせるようにしながら支援するように事前に指導する必要がある。
- ・幼稚園でも給食の準備等、自分たちの力でできるようになっている。1年生のサポートをするのであれば、事前に6年生の子ども達が幼稚園に来て、園児がどれぐらいのことまでできてどんなことができないのかを見て理解する機会があってもよいと思う。

4. 健康的な職場環境づくり

【地域人材による授業・行事支援・環境整備】

○自己評価は適切である。

- ・地域人材による支援の結果として、先生方の負担が減るのは分かるが、地域の人々が学校支援をしているのは、子ども達の環境を整えるためである。学校支援については、どちらかというと連携の取組になるのではないかと。来年度は、この項目については見直す必要がある。

【風通しの良い職場づくりの推進】

○自己評価は適切である。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

1.確かな学力の育成

- ・子どもたちが「わかる」「楽しい」授業づくりに向け、さらなる授業改善を行う。
- ・AZO ノート等、家庭学習時間の達成率の向上を目指す。
- ・朝学習での100マス計算や漢字練習を継続し基礎学力の定着を図る。

2.心の教育の充実

- ・阿曾小学校が伝統的に取り組んでいる自問掃除の指導を継承していく。また、子どもたち自身が無言の必要性を考えながら自問掃除に取り組むことができるように継続指導を行っていく。
- ・気持ちのよいあいさつができる児童の育成を目指す。

3.連携協働する学校づくり

- ・学校の教育活動を、学校だよりやホームページを活用して積極的に発信していく。
- ・コミュニティ・スクールを立ち上げ、地域とともにある学校づくりをすすめる。